

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

| | | |
|--|---|------------------|
| 平成20年度 厚生労働大臣賞 受賞 | 受賞者名 | エーザイ株式会社 川島工園 |
| | 所在地 | 岐阜県各務原市 |
| | 受賞テーマ | 環境負荷低減に伴う資源の有効利用 |
| | <p>1. 活動継続 あり</p> <p>工園から排出されるエタノール等を活性汚泥排水処理施設の栄養源として活用している。 アルミフィルムの紙管についてフィルムメーカーとの間で繰返し使用している。 (原薬製造工程での触媒循環使用は、川島工園での合成事業終業に伴い現在は行っていない)</p> | |
| <p>2. 活動の広がり あり</p> <p>医薬品の製造工程では、製品ごとのロス率改善を工園の年度目標を定めて、ロスの徹底的な原因調査から原因となっている部分のハード面、ソフト面双方の改善に取組み大幅なロス率改善に成功している。それにともない廃棄物の削減やコスト削減に大きく貢献している。 工園内の文書を紙からシステム管理に変更することにより、大幅なペーパーレス化を実現できた。 包装工程では機械調整で発生するアルミと樹脂が溶着されたシートのリサイクルが実現できた。</p> | | |
| <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">加工</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">プラスチックとして 再利用</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">アルミニウムとして 再利用</p> </div> </div> </div> </div> | | |
| <p>工園内で発生する汚れてない樹脂バッグを分別回収し、外部の樹脂バックメーカーに収め、そのメーカーから新品の樹脂バックを購入するスキームを確立した。</p> | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> | | |
| <p>3. 今後の計画</p> <p>現状の諸活動を継続する。</p> | | |

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

同工園は1966年3月に操業を開始して以来、自然との共生・地球環境保全等に注力した生産・研究活動を目指している（「工園」は、工場と公園の造語）。

●リデュース活動

原薬の生産工程では従来、多量のハロゲン系溶媒が排出されていたが、これを廃止し、回収率の高い反応溶媒を使用した生産技術を確立した。また、無機系触媒原料の削減や、溶媒を一切使用しない無溶媒水洗法を確立するなど徹底した使用量・ロス量の削減に取り組んでいる。

●リユース活動

大量に使用する有機溶媒は工程内で濃縮回収し、元の反応溶媒として循環再使用する。また、大気に拡散するわずかな溶媒ガスを回収し、反応溶媒としての再使用を実現した。さらに一部の反応触媒について、原料購入メーカーの協力を得て、濃縮回収した触媒混じりの廃液をメーカーで精製し、元の触媒原料として再使用する技術を確立した。

●リサイクル活動

- ・生産工程で副生する化学物質は、一部、外部メーカーの原料として供給。
- ・廃油や廃溶剤などは、分別しエネルギー源として利用。
- ・生産工程で排出されるアルコールは回収して、工園の排水処理場での活性汚泥の栄養源として活用。
- ・包装工程で使用するアルミフィルムの紙管をメーカーに返却しリサイクル使用。等

●化学物質の適正管理

化学物質については、購入、使用から廃棄に至る全ての段階において適正な管理に努めている。



川島工園の全景
(総敷地面積約 47 万㎡、緑化率約 50%)



伐採樹木を利用したベンチ
(工園内日本庭園周辺)